

技術フォーラム ニュース

シンポジウム ITについてもっと知ろう -進化する情報化時代における市民の役割-

日時:平成 19 年 8 月 25 日(土)
場所:新橋生涯学習センター

問題提起 原田 敬美(技術フォーラム理事長)

1964 年東京オリンピックの頃、電話局に長距離電話を申しむと、つながるのに 2 ~ 3 時間も待ちましたが、今は世界中に瞬時にしかも低料金で電話、メールでやり取りができる様になっています。

また、区長に就任した際、区長室にコンピューターを入れようとしたら、配線が無く、コンピューターは設置できないとの回答でした。OA(オフィスオートメーション)化が叫ばれた 1985 年竣工の庁舎で区長室にコンピューター配線が無いのは非常な驚きでした。

次にセキュリティ対策の話ですが、区長のコンピューターに不具合が生じたので、私が席をはずす時間に技術者に修理に来てもらいましたが、驚いたことにその間秘書が立ち会っていませんでした。つまり、修理の間、技術者にメールの中身を全て見られたわけで、これは完全なヒューマンエラーでした。

一方海外では、2004 年スウェーデン福祉研究所(ヨーロッパで最大の福祉研究所)に訪問した際、IT 技術を活用した介護製品の開発を見せてもらいました。音声で照明を点灯、消灯したり、ベッドを起こしたりなどは日本の IT 技術水準からするとお得意分野であるはずですが。

田吹:IT に関連し 4 人の専門家のパネリストに参加していただきました。吉田健二さん(ロボットの制御)、菅野淳さん(ユビキタス)、石川明彦さん(大型コンピューター的设计)、橋本義平(システム開発、監査)の各氏です。まず、IT とはいったい何か、それぞれの立場から一般の方に易しく説明をお願いします。



吉田:身近な IT はパソコンですがパソコンの始まりは電卓です。パソコンの中にはインテル社製のチップが

使われていますが、その元は日本メーカの電卓用のチップです。それは日本人技術者の島さんという方が設計・製造したもので、これがパソコンのきっかけとなったわけです。だから、パソコンのきっかけは日本人、日本企業の開発によるものです。

菅野:コンピューターは実は非常に身近な所に入っていて、例えば携帯電話には、通信を制御するコンピューターや電話帳を制御するコンピューターが入っています。自動車のレクサスに 100 個近いコンピューターが使われています。これらの分野では日本メーカが強いのです。

最近、ユビキタスという言葉を使いますが、これはラテン語で「いつでも、どこでも」という意味で、コンピューターにいつでも接することができる社会がユビキタス社会です。ユビキタス社会では安全、安心が実現できます。電子タグという 0.4 mm のチップを食品につけてトレイサビリティ(産地、輸送ルートなどわかる)を確保することにより、食の安全などが保証出来ます。

石川:IT はインフォメーションテクノロジーの略とされていますが、私はインフォメーションツールだと思っています。情報を扱う道具と言うことです。従来は電話が早くつながる、計算が早くできるというツールを作り出すために仕事をしてきましたが、これだけ便利になると市民からはこれからは本当に何が欲しいかが見えてきません。IT はインターネットとパソコンが基本ですが、もっと使いやすいツールを作る必要があります。

橋本:インターネットとパソコンが IT の中心ですが、道具が便利になるほど、反面不便となる面があります。昔は、読み、書き、そろばんの能力が必要とされましたが、今はコンピューターを使う能力(コンピュータリテラシー)が必要とされます。その能力格差によるデジタルディバイドなどが大きな社会問題になっています。



シンポジウム(続き)



やがて、90年代のインターネットの時代を迎えました。そのためホワイトカラーは毎朝、100件以上のメールチェックで4時間、それから本当の仕事が4時間なので生産性が落ちています。また、インターネットでは匿名で悪さをすることができるという欠陥を知っておく必要があります。

いずれにしても、コンピューターを身近にいかに関用するかが大切です。

田吹:音楽を聞く際、昔はレコードで今はCDとなりました。デジタルの信号で処理できる様になると音楽も、映像もコンピューターで活用されます。さらにインターネットにより携帯電話から航空機の座席を予約したり、チケットレスで乗れるような時代になりました。ITはこれからどう進化するのでしょうか？

吉田:ITが進化することで、双方向で会議も中継できますし、インターネットを使うことで全世界と情報交換ができるようになります。

菅野:放送がデジタル化され、品質の良い映像、多様なサービス(ワンセグ放送、データ放送、同時ニュース放送)などが提供できるようになります。地上波デジタル放送は2006年12月に開始し、2011年にはすべてデジタルに変わります。双方向で番組の中でクイズができたり、紅白歌合戦で視聴者が投票したりできます。技術的に見ると電波が有効に使え、すでにイギリス、韓国など20カ国で放送されています。現在墨田区の押上に500億で600メートルの第2東京タワーが建設予定です。

石川:市民が知らないといけない話として情報のセキュリティの問題があります。フィッシング(にせのメール等をつかってID、パスワードをだまし取る)はいわば情報のオレオレ詐欺のインターネット版です。詐欺に遭わないためには、メールの相手を信用しない事が第一で、個人情報、IDパスワードを要求されたらおかしいと思わなければいけません。メールにあるURL等を信用せず電話などのべつの手段で相手に確認

することです。インターネットの場合1回ボタンを押したらもう取り返しはつきません。

橋本:IT分野ではカタカナが多く馴染みにくいこともあり、専門家はまず利用者に易しく説明する必要があります。現実にはコンピューター無しでは生きてゆけない状況なので、情報社会を一方向的に怖がってはいけません。個人情報や個人番号をどう使うか、システムは安心できるかなどをチェックする必要がありますが、一般の人にはよくわからないのが問題です。

その点で情報システムの監査が必要です。地方自治体の情報分野の費用は2~3兆円と道路などの建設費と比べ、大きくなっています。ITを生活に取り込む必要があるため、市民の役割として、システムの監査を役所に要求することがあります。役所はその説明責任があります。

明治時代の近代化の中で技術は役所が担っていましたが、情報分野では役所の技術が不足しています。この点、役所も気が付いてきて、能力の足りない分野で外部の人間を採用しつつあります。



質疑:

デジタル放送は雷などで時々切れるのが問題です。2011年でアナログ放送は見られなくなりますが、テレビの買い替えが必要になるのは困ります。

菅野:デジタル放送ではエラー処理等を行っているが、技術的にはやむを得ない面があります。アナログ放送停止時には安いチューナーが出回ることでしょう。

田吹:今回は時間が無いので、次回にデジタル放送関係に絞ったシンポジウムを検討します。

技術フォーラム 活動報告

1) 監査、研修講師派遣等実績

1	東京都 A 区	建設分野技術監査	2006 年 6 月	建設工事の実施設計についての監査
2	東京都 B 区	情報分野技術監査	2006 年 6 月～ 2006 年 12 月	情報システム構築に関するシステム監査を 当会会員が担当
3	東京都 A 市	建設分野技術監査	2006 年 10 月	建築工事についての監査
4	市民団体	建設分野技術評価	2007 年 1 月	道路工事についての評価
5	東京都 B 市	情報分野講師派遣	2007 年 2 月	「情報システムのコスト対効果」についての研修
6	東京都 C 市	建設分野技術監査	2007 年 3 月	道路工事についての監査
7	東京都 C 区	建設分野技術監査	2007 年 7 月	道路工事についての監査
8	東京都 C 区	建設分野技術監査	2007 年 8 月	建築工事についての監査
9	東京都 C 区	建設分野技術監査	2007 年 8 月	電気工事についての監査
10	東京都 C 区	建設分野技術監査	2007 年 8 月	空調工事についての監査
11	東京都 C 区	建設分野技術監査	2007 年 9 月	道路工事についての監査
12	東京都 C 区	建設分野技術監査	2007 年 10 月	建築工事についての監査
13	東京都 D 区	建設分野技術監査	2007 年 10 月	建築工事設計についての監査
14	東京都 D 区	建設分野技術監査	2007 年 10 月	電気工事設計についての監査
15	東京都 D 市	建設分野技術監査	2007 年 10 月	建築工事についての監査

2) 当会会員による関連雑誌記事、新聞記事、書籍等

1	「事業の無駄を斬る！ 技術専門家の目・総論編」 原田敬美 月刊「地方自治職員研修」 2006 年 1 月号、公職研
2	「事業の無駄を斬る！ 技術専門家の目・建設編」 根本 泉 月刊「地方自治職員研修」 2006 年 2 月号、公職研
3	「事業の無駄を斬る！ 技術専門家の目・環境編」 高堂彰二 月刊「地方自治職員研修」 2006 年 3 月号、公職研
4	「事業の無駄を斬る！ 技術専門家の目・情報編」 田吹隆明 月刊「地方自治職員研修」 2006 年 4 月号、公職研
5	「談合の根絶 外部監査で公正性確保」 原田敬美 読売新聞「論点」 2006 年 3 月 2 日
6	「私の官民協働のまちづくり - 東京港区長奮闘記」 原田敬美 学芸出版社 2006.9.10 発行 ISBN4-7615-1217-2

3) 当会主催のシンポジウム (シンポジウムの様子は <http://www.cea.or.jp/efsca/> で公表しています。)

1	「事業のムダを斬る！」 - 港区長時代の公金活用術について - 2006 年 2 月 25 日(土) 港区生涯学習センター
2	「構造計算偽造事件」 - その構図と技術者倫理 - 2006 年 5 月 27 日(土) 港区生涯学習センター
3	「構造計算偽造事件 第2弾」 - 監査の目から - 2006 年 8 月 26 日(土) 港区生涯学習センター
4	「港区のまちづくりはいかに展開されたか？」 - 「私の官民協働のまちづくり - 港区長奮闘記」を読んで - 2006 年 11 月 25 日(土) 港区生涯学習センター
5	「今、教育に問われていること」 2007 年 2 月 24 日(土) 港区生涯学習センター
6	「地球となかよく暮らすために」 2007 年 5 月 26 日(土) 港区生涯学習センター
7	「IT についてもっと知ろう - 進化する情報化時代における市民の役割 - 2007 年 8 月 25 日(土) 港区生涯学習センター

技術フォーラム 活動予定

1) 監査、研修講師派遣等予定

	対象機関	分野・種別	年月	内容
1	東京都 D 区	建設分野技術監査	2007 年 10 月	造園工事についての監査
2	東京都 E 区	建設分野技術監査	2007 年 11 月	建築工事についての監査
3	東京都 A 市	建設分野技術監査	2007 年 11 月	建築工事についての監査
4	埼玉県 F 市	監査分野講師派遣	2008 年 2 月	技術監査の意義について

2) シンポジウム予定

テーマ: IT についてもっと知ろう Part2
- デジタル社会に生きるには -
日時: 平成19年11月24日(土)
10時10分～11時50分
場所: 港区立生涯学習センター

参加費(資料・茶菓代): 1000円

内容: パネルディスカッション

8月の1回目に続いて、最近のITに関する話題をやさしく説明し、出席者の皆様の疑問に答えます。特に今回は出席者の皆様の質問に答える時間を多くとります

司会進行: 田吹隆明(技術士: 情報工学)

パネラー: 吉田健二(技術士: 電気電子)

橋本義平(技術士: 情報工学)

菅野 淳(技術士: 情報工学)

当シンポジウムへの参加ご希望の方は、氏名、所属を明記の上、下記ニュースレター事務局または下記の申込 FAX までご連絡ください。

申込 FAX: 03 - 3404 - 0734

編集後記

当 NPO では、年4回「ニュースレター」を発行することになりました。これは3カ月に1回実施しているシンポジウムの内容を広く皆様に知ってもらうことを大きな目的にしています。創刊号は8月に実施したシンポジウムの内容「IT についてもっと知ろう」について、その概要を編集しました。わかりにくいと言われる IT について、わかりやすく専門家に語ってもらいました。好評につき、次回も同じテーマで第2回を企画にしています。自治体監査担当者にも有益な内容と思います。ぜひご期待ください。

このニュースレターに関して、ご意見、ご要望があれば下記ニュースレター事務局までご連絡ください。

ニュースレター事務局: oka@cea.jp

3) 資格認定講習会予定

第2回技術監査人認定講習会

日時: 平成20年春(詳細未定)

場所: 未定

費用: 未定

「技術監査人」は現在登録商標申請中です。認定講習会受講ご希望の方は、下記ニュースレター事務局までご連絡ください。詳細決定次第お知らせします。

4) その他定例会活動事項

月例会

日時: 毎月最終土曜日 10:00～

場所: 港区立生涯学習センター

会員であれば、どなたでも自由に参加できます。

小委員会

日時: 毎月第2土曜日 10:00～

場所: キャンパスイノベーションセンター

当 NPO の運営方針、今後の予定等を検討する委員会です。原則、理事長、理事、各分野委員長・副委員長が参加します。

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル 4 階

連絡先 TEL/FAX 03-3403-2325

理事長 原田 敬美